

令和２年２月定例記者会見

日 時：令和２年２月１３日（木）１３：３０～

場 所：本学事務局３階第１会議室

内 容：

１．２０１９年度ダイバーシティシンポジウムの開催について

（学長補佐（男女共同参画担当） 高橋由紀子）

２．ゴム廃棄物からのプラスチック生産系の開発をめざして

（生物機能工学専攻 准教授 笠井 大輔）

３．USB-DHS を用いた閉鎖循環式陸上養殖システムの開発（クエの陸上養殖）と長岡水イノベーション・ハブ設立について

（環境社会基盤工学専攻 助教 渡利 高大）

４．第１９回 和太鼓「早春の陣」開催について

（悠久太鼓愛好会 つるかめ会）

（輪太鼓衆 転太鼓舞）

以 上

報道資料

令和2年2月13日

報道機関各位

長岡技術科学大学 学長補佐（男女共同参画担当）
物質材料工学専攻 准教授 高橋由紀子

2019年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」ダイバーシティシンポジウムの開催について ～ものづくり地方都市における工学系女性研究者の育成・支援～

ダイバーシティ研究環境の実現に向けて共通理解と意識改革を図るため、連携機関・協力機関の教職員、学生、関係機関、一般の方々を対象にシンポジウムを開催いたします。工学・工業系の女性研究者・技術者を増やし、男女共同参画社会の実現に寄与していくことを学内外に示すと共に、他機関との連携協力関係を一層深く広く築く機会といたします。

招待講演として、11年連続ジェンダー・ギャップ指数（社会進出における男女間格差を測る指数）1位のアイスランドから Kristín Ingvarsdóttir（クリスティン イングバルスドットイル）氏（アイスランド大学 教員）を講師に迎えて、日本が学ぶべきことは何かについてお話しいたします。また、新潟県内で唯一「ホワイト企業アワード」を受賞している株式会社サカタ製作所の代表取締役社長 坂田 匠氏から、グッド・プラクティスとして男性の育休についてお話しいたします。

日 時：2020年2月28日（金）15：30～17：00（開場15：00）

場 所：長岡技術科学大学 マルチメディアシステムセンター

主な内容：招待講演 アイスランド大学 教員 Kristín Ingvarsdóttir 氏

「北欧から学ぶ：男女共同参画の実現」（日本語での講演です）

グッド・プラクティス 株式会社サカタ製作所 代表取締役社長 坂田匠氏

「男性の育休は百利あって一害なし」

ディスカッション 講演者および会場の皆様との質疑応答や自由な意見交換

人口減少、高齢社会である地方都市の産業を維持発展させるためにも、女性をはじめ多様な人々が能力を発揮して学び、働き、研究ができる社会が求められています。意識改革はどうあればよいか、ワークライフバランスをどのように支援するか、共に考えて参ります。

子育て中の方々にもご参加いただけるよう託児（無料）も用意いたしましたので、ご利用ください。
参加のお申し込みや託児についてはチラシをご覧ください。

報道資料

令和2年2月13日

報道機関各位

長岡技術科学大学 生物機能工学専攻
准教授 笠井大輔

研究紹介「ゴム廃棄物からのプラスチック生産系の開発をめざして」

これまでに世界で83億トンのプラスチックが生産され、49億トンの廃棄プラスチックが生じています。加えて、マイクロプラスチックによる環境汚染が取り上げられている昨今、生物資源由来のバイオプラスチックに注目が集まっています。特に微生物が生産する3-ヒドロキシアルカン酸ポリマー（PHA）は、土壌や水環境での生分解性が高く、社会実装による環境負荷の低減が期待されます。しかしながら、現状のPHA生産には、植物油脂（パーム油）や糖といった可食成分が必要なため、食糧との競合が懸念されます。それを回避するために、樹木成分等の非可食性バイオマスからの生産系確立が望まれています。

樹木成分の1つであるテルペン類、特にゴムノキで生産されるポリイソプレン（天然ゴム）は、世界で年間1,200万トン以上の生産量を誇り、自動車産業を含む幅広い分野で利用されています（2012年IRSG統計）。同時に、石油由来合成ポリイソプレンも不可欠な材料として利用されていますが、それらの廃棄物の多くは焼却や埋め立てにより処分されており、再利用・リサイクルは極めて限定的であるのが現状です。つまり、廃棄ポリイソプレンを原料とした生分解性プラスチック生産を実現することで、上記の社会的課題の解決に繋がると考えられます。

そこで我々は、ポリイソプレン（天然ゴム）分解細菌を利用してゴムとその廃棄物を原料としたバイオプラスチック生産系の開発を目指した研究開発に取り組んでいます。そして、これまでにポリイソプレンを分解・資化できる微生物を単離し、その分解能力の強化に成功しました。さらに、ポリイソプレンの微生物分解物からPHAを生産できる微生物を発見しました。これら複数の微生物のユニークな能力を融合することで、前例のない新規な微生物変換系の確立を達成できると考えています。

本研究の成果は、持続可能な社会の形成に必要な“石油資源の利用削減とそれに伴うCO₂排出抑制”、さらには“非可食性バイオマスの利用用途拡大”の達成に貢献できると期待されます。

本研究は、科学技術振興機構（JST）未来社会創造事業 探索加速型「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域「ゲームチェンジングテクノロジー」による低炭素社会の実現の研究助成を受けて実施しています。



報道資料

令和元年 2 月 13 日

報道機関各位

長岡技術科学大学

技術科学イノベーション専攻 教授 山口隆司

産学融合トップランナー融合養成センター 特任准教授 幡本将史

環境社会基盤工学専攻 助教 渡利高大

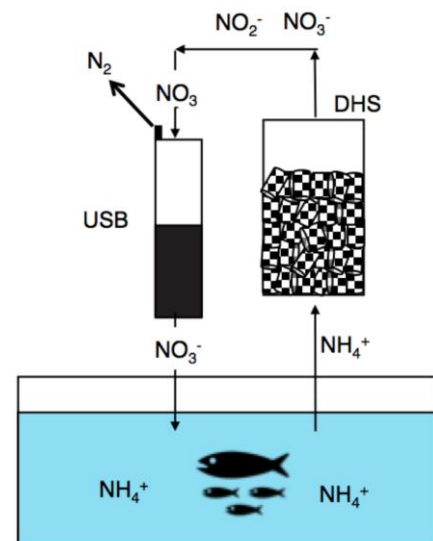
「DHS-USB システムを用いた閉鎖循環式陸上養殖システムの開発（クエの陸上養殖）」

1. 概要

日本における魚の漁獲量は年々減少の一途を辿っており、安定した食料確保や日本古来の食文化を継承していく点など解決すべき大きな問題となっております。近年、陸上で魚を養殖し出荷する閉鎖循環式陸上養殖の実現に向けて盛んに研究が行われておりますが、残餌や魚の糞尿などから発生するアンモニアによって水質が悪化するため水交換や高度な水処理技術が必要です。我々の研究グループではこれまで下水や産業廃水処理に関する研究を推進してきましたが、この技術を閉鎖循環型陸上養殖システムへ適用し約 2 年間、クエの連続養殖実験に成功しました。

2. 説明

DHS リアクターは、スポンジを微生物が大量に住めるよう（標準活性汚泥法の約 10 倍）に設計し、スポンジの上から水を流すことで空気中から酸素を取り込みます。酸素は魚の生育には必要不可欠であり、従来型の閉鎖循環型陸上養殖システムでは、大量の電力を使用し曝気を行っています。この DHS リアクターを用いることによって”流すだけで酸素補給”が実現可能です。また、アンモニア酸化や亜硝酸酸化に關与する微生物がスポンジ内に生息しており、養殖水槽で発生したアンモニアを直ちに硝酸へ酸化します。USB リアクターは微生物が自分で塊を作る作用を利用して粒を形成し、硝酸を窒素ガスへ転換します。本実験では、高値で取引されるクエを対象として稚魚から約 2 年間、連続して養殖を行い、概ね出荷できる大きさまで育てることに成功しました。食味試験では、食品卸売業者や居酒屋の皆様から好評を得ました。



3. 今後の展望・抱負

安定した食料確保のため陸上養殖システムの確立はとても重要です。今後はさらに大量に飼育できるように水処理技術を改良し実用化へ向けて推進いたします。

【研究体制】 共同研究者：株式会社昭和興業； 研究協力者：金沢大学

水 × S D G s

長岡水イノベーション・ハブ

キックオフ・
ミーティング

水

養殖・錦鯉・水質・
活魚輸送など水を利・活用する様々な分野の関係者が集まり、
新技術や新しいアイデアで課題解決する新たな交流の場です。
多くの方からのご参加をお願いします。

環境微生物

環境浄化・
資源循環・
水耕栽培など

土壌

土壌環境・連作障害など

日時

令和2年 2月25日 火 18:00~20:00

18:00~

■ 開会挨拶 ・ 長岡水イノベーション・ハブの概要

代表 山口 隆司 (長岡技術科学大学 教授)

参加無料

18:10~

■ 事例紹介

① 微生物・生物・植物を用いた水・土壌管理技術

長岡技術科学大学

② 都市下水・産業廃水の処理・再生、陸上養殖

教授 山口 隆司

③ ロボット×AIによるアクアポニックス※の全自動化構想

長岡工業高等専門学校

※水耕栽培と水産養殖を融合させた 次世代の循環型有機農業

准教授 村上 祐貴

④ 地方創生の取組みで、世界に蔓延する植物病原菌への挑戦

長岡技術科学大学

～ジャガイモソウカ病抑制技術の確立の取組事例～

准教授 牧 慎也

⑤ 水処理汚泥を利用した植物病害抑制機能性

長岡技術科学大学

コンポストの開発

特任准教授 幡本 将史

19:10~

■ 講評

長岡市産業イノベーションアドバイザー 新原 皓一

19:15~

■ 情報交換会 (クエの試食会と交流懇親会)

※参加費 1,000円 (当日、受付をお願いします)

陸上養殖したクエを試食しながら、
参加者で意見交換を行います。
お酒を飲まれる方は、自家用車での
参加はご遠慮ください。

20:00

会場

ナデック ベース
NaDeC BASE

長岡市大手通2丁目3-1 (旧大和長岡店ビル1階)

※施設に駐車場はありません。近隣の有料駐車場をご利用いただくか、公共交通機関をご利用ください。

申込み

2月21日(金) 正午 までに、

NaDeC BASEのWebサイトまたはFAXでお申し込みください。

Web <https://www.nadec-base.jp/2020/02/12/200225/>

FAX 0258-36-7385 (長岡市産業イノベーション課)

スマホからの
申し込みは、左
記のQRコード
をご利用くださ
い

企業 (団体名)		所属部署 ・ 役職		フリガナ お名前	
Eメール		電話		情報交換会 (会費1,000円)	参加 ・ 不参加

主催 長岡水イノベーション・ハブ

【お問い合わせ】事務局：長岡市商工部 産業イノベーション課
E-mail: sangyou-seisaku@city.nagaoka.lg.jp 電話：0258-39-2402

報道資料

令和2年2月13日

報道機関各位

『第19回 和太鼓「早春の陣」 開催について』

和太鼓「早春の陣」実行委員会

悠久太鼓愛好会 鶴亀会（長岡技術科学大学）

輪太鼓衆 転太鼓舞（長岡造形大学）

1. 概要

和太鼓「早春の陣」は長岡技術科学大学と長岡造形大学の和太鼓サークルに所属する学生が主体となって開催する和太鼓の演奏会です。和太鼓の演奏を通してその魅力を広めること、地域の皆様との交流を深めることを目的に2002年の関原小学校での開催以来、毎年3月初旬頃に行なっています。

2. 内容

和太鼓「早春の陣」は2大学の和太鼓サークルの有志で実行委員会を結成し、企画からポスター・チラシの製作、会場の設営などの全てを学生のみで運営しています。当日の演奏も各団体の持ち曲のみならず、「早春の陣」限定曲、二団体による合同曲、卒業生による卒業生曲など工夫を凝らして臨んでいます。

昨年の4月から1年をかけて準備を重ねてきた集大成としてお客様に楽しんでいただくことはもちろん、我々も楽しみながら演奏することで会場が一体となる演奏会にしたいと考えております。

3. 開催要項

開催場所：アオーレ長岡 市民交流ホールA

日時：2020年3月1日（日）

開場 11:00／開演 13:00／閉演 14:30(予定)

入場無料・先着194席(11:00より会場前にて座席券配布)

出演団体：悠久太鼓愛好会 鶴亀会（長岡技術科学大学）

和太鼓衆 転太鼓舞（長岡造形大学）

4. 出演団体について

◎悠久太鼓愛好会 鶴亀会

悠久太鼓愛好会鶴亀会は長岡市の和太鼓団体「悠久太鼓連合会」の加盟団体です。週2回の練習日を設けて技を磨き、夏場は地元の祭りでの演奏、冬場はデイサービスや老人ホームなどでの慰問演奏を行なっています。地域の皆様のご理解もあり、毎年50件近くの出演をさせて頂いています。

我々は様々な場所で和太鼓を演奏させていただくことで、普段和太鼓を聞く機会のない方々に少しでも魅力を伝えるとともに、日本の伝統文化の保存・継承に貢献していきたいという思いで日々活動しています。

◎輪太鼓衆 転太鼓舞

輪太鼓衆転太鼓舞は「みんなで輪になって太鼓を叩こう！」をモットーに日々練習に励んでいます。長岡市を中心とした県内各地に輪を広げ、お客様とともに楽しむことのできる演奏を心がけていますので、是非とも輪に加わって一緒に楽しみましょう！

<お問い合わせ先>

和太鼓「早春の陣」実行委員会 委員長 鎌田 麗衣（かまだ れい）

電 話：080-6963-7477（鎌田）

e-mail；sousyunnojin@gmail.com

※詳細内容，ポスター画像データ等の提供などお気軽にお問い合わせください。

以上

第十九回 和太鼓

早春の陣

輪太鼓衆 転太鼓舞

悠久太鼓愛好会 鶴亀会

2020年
3月1日(日)

アオーレ長岡 市民交流ホールA

観覧無料
先着 194席

11:00 市民交流ホールAにて
太鼓体験開催!!

11:00 座席券配布・開場
13:00 開演
14:30 終演予定

※座席券配布時に座席をお選びいただきます。

※座席券には限りがあるため、入場をお断り
させて頂く場合がございます。

※座席券は当日会場にて配布いたします。

国立大学法人 長岡技術科学大学 / 公立大学法人 長岡造形大学 / 長岡市教育委員会 /
株式会社エヌ・シー・ティ / 長岡商工会議所 / FM 長岡 80.7 / 長岡新聞社 / 長岡市

和太鼓「早春の陣」実行委員会
mail:sousyunnojin@gmail.com
tel:080-6963-7477 (代表: 鎌田)
<http://sousyunnojin.blogspot.jp>
「早春の陣」で検索



長岡技術科学大学 原子力安全フォーラム
原子力規制人材育成事業 地域連携新潟モデル規制セミナー
「新潟モデルによる原子力安全規制人材育成」開催案内

長岡技術科学大学原子力システム安全工学専攻では、学生・教員が地域のみなさまと共に学ぶ機会を作ると共に、原子力に関する研究教育成果をご紹介してフィードバックを得るために、毎年「原子力安全フォーラム」を開催してまいりました。

また 2016 年度からは、原子力規制庁・原子力規制人材育成事業の一環として、原子力発電プラントの規制体系を技術者の視点から実践的に理解し、更に自主的取り組みも含めた安全性向上を行う技術力を有する原子力規制人材と実践的技術者を育成するカリキュラムを開発することを目指した取組を行っています。本年度は、検討している教育カリキュラムの狙いなどについて発表し、参加者の方とも議論します。併せて、ポスター発表の形式で、本学における原子力研究教育の成果（特に、原子力規制人材育成事業の成果）をご紹介いたします。プログラムの詳細、および申込方法は下記の通りです。みなさまのご参加をお待ちしております。

記

1. 日 時： 令和 2 年 2 月 26 日（水）13:30-16:00
2. 場 所： まちなかキャンパス長岡 301 会議室
(新潟県長岡市大手通 2-6 フェニックス大手イースト 3 階)
3. プログラム (講演者・講演順序は前後する可能性があります)
 - 13:30 開会挨拶 (長岡技術科学大学・専攻長 江 偉華)
 - 13:40 趣旨説明 (長岡技術科学大学)
 - 13:50 規制庁における原子力規制人材育成の取組みおよび大学への期待
(原子力規制庁 人事課課長 金城慎司様)
 - 14:20 休憩・ポスターによる長岡技術科学大学の取り組み紹介
 - 14:50 原子力システム安全規制コースの設置とその狙い
(長岡技術科学大学原子力システム安全工学専攻
特任教授 鈴木雅秀)
 - 15:20 パネルディスカッション：原子力システム安全規制コースへの期待
(登壇者：ご講演者、及び長岡技術科学大学教員.)
登壇者話題提供 (求む人材像とコースへの期待)
 - 16:00 閉会挨拶 (長岡技術科学大学)
4. 申込・問合せ先： 参加ご希望の方は長岡技大・村上<murakami@vos.nagaokaut.ac.jp>及び事務室<jkikui@vos.nagaokaut.ac.jp>まで、お名前・ご所属をご連絡下さい。

以上